

## ☆障がいのある生徒などへの配慮 ～理数編～



高等学校学習指導要領解説理数編に掲載されている内容をまとめました。

### 【高等学校 理数の配慮例】

#### 1 文章を読み取り、数量の関係を文字式を用いて表すことが難しい場合

【10の視点】から予想される困難さ

(例) ①見えにくさ ⑨読み書きや計算等の困難さ

<そのための指導の工夫の意図、手立て>

生徒が数量の関係をイメージできるように、生徒の経験に基づいた場面や興味のある題材を取り上げ、解決に必要な情報に注目できるよう印を付けさせたり、場面を図式化したりすることなどの工夫を行う。



#### 2 空間図形のもつ性質を理解することが難しい場合

【10の視点】から予想される困難さ

(例) ①見えにくさ

<そのための指導の工夫の意図、手立て>

空間における直線や平面の位置関係をイメージできるように、立体模型で特徴のある部分を触らせるなどしながら、言葉でその特徴を説明したり、見取図や投影図と見比べて位置関係を把握したりするなどの工夫を行う。



#### 3 実験を行う活動において、実験の手順や方法を理解することが困難である場合

【10の視点】から予想される困難さ

(例) ①見えにくさ ②聞こえにくさ ⑩注意の集中を持続することが苦手

<そのための指導の工夫の意図、手立て>

見通しがもてるよう、実験の操作手順を具体的に明示したり、扱いやすい実験器具を用いたりするなどの配慮をする。

#### 4 燃焼実験のように危険を伴う学習活動

【10の視点】から予想される困難さ

(例) ③道具の操作の困難さ ⑩注意の集中を持続することが苦手

<そのための指導の工夫の意図、手立て>

教師が確実に様子を把握できる場所で活動させるなどの配慮をする。



理数科における配慮の例は四つですが、中学校・高等学校学習指導要領の理科と数学の配慮例と同じ内容になります。生徒の困難さに応じて、小学校学習指導要領解説算数編・理科編で示されている配慮の例も参考になります。



\* 1：小学校・中学校・高等学校学習指導要領解説の各教科等に示されている、学習活動を行う場合に生じる困難さ（①見えにくさ②聞こえにくさ③道具の操作の困難さ④移動上の制約⑤健康面や安全面での制約⑥発音のしにくさ⑦心理的な不安定⑧人間関係形成の困難さ⑨読み書きや計算等の困難さ⑩注意の集中を持続することが苦手）を整理して、当センターでは、【10の視点】として位置付けています。